

賢愚
新文
聖人
肝潰
志初
雅

10

15

20

25

万亭應賀著

第初号

聖人肝潰志

明治新刻

榮久文庫

聖人肝潰志發端序



夫文作をして先生と云ふんも其の灰吹をけりけり先生といふ
 是はくごころう心安しきまの論語不讀の論語をば此
 聖人肝潰を綴る夜業の自在の天井より下れど棚より落と牡
 丹餅の一度も喰ばあはれも天命のまはれも天命と天道まはれ其
 日をおりて今もや吾年の五十より人でもなくあはれんさんび
 こらへ来鷹 人とて止るともあはれ者鳥おど鹿猿生獸らも
 ぬらぐぶらの助也ぶせ本性の御ぎぬぬと御免候へといひく

明治五壬申年

万亭應賀誌



聖人肝潰志



孔子の顔氏

周の靈王襄公

二十二年十月

庚子の日孔子生賜ふ

此時五星の精

五老とからんて

庭に降り

二龍顔子の

室を免る

空中の和樂の

声らしと

都て

生るのて



孔子

四十九の

異質なり

御胸に

制作定世符の

文ありしと人

後母の連子象九郎
春次を井戸の中に
いれて殺さんとさうする

後母の連子
象九郎

次編の本文

はり



○ 賢愚 聖人肝潰志 万亭應賀著
初号

東都智作郎

花の森の懸念所小室屋宗六の唐物店に有り名と名れ
から字をとりて家の中に附く人々を小室の店と名れ
家の将名を忠次とよびて幼より昌平山の春翁先生の塾
となつて聖人の学文をまらびけりその才智凡そこれ
十の才の和漢の國史群書小説ふらふまであまねく
学びそらんトけり春翁の末このり玉家の名と

Handwritten text in a cursive script, likely a list or record of names and titles, written vertically from right to left.

東京

芝神明前 和泉屋市兵衛

馬喰町二丁目 森屋治兵衛

書肆

同 山口屋藤兵衛

通油町 藤岡屋慶次郎

地本

横山町三丁目 辻岡屋文助

浅草茅町 品川屋朝次郎

問屋

本所松坂町 三河屋又兵衛

親父橋角 山本平吉

010190522909

